

電中研「酸性雨研究」のあゆみ

西 暦	電 中 研 の 状 況	日 本 の 状 況
1872		岩倉具視遣欧使節団の派遣
1883		アルカリ産業による環境汚染の実態を報告 ケルナーが東京で降水の化学分析
1913		農事試験場が東京などで降水の化学分析
1918		大阪市が降下ばいじんの調査を開始
1935		中央气象台が降水の化学分析を開始
1955		菅原健や三宅泰雄が降水化学の研究を展開
1968		大気汚染防止法の制定
1971		環境庁の発足
1973		関東地方で湿性大気汚染が発現（1975年にも）
1975	酸性雨の植物影響の研究を開始	環境庁が湿性大気汚染調査を開始
1976		気象庁が綾里にバックグラウンド観測所を開設
1978	関東地方や西日本地域で酸性雨の実態調査を開始	
1983		環境庁が第一次酸性雨対策調査を開始
1984	瀬戸内地域で酸性雨の実態調査を実施	
1985		関口恭一らが関東地方でスギ枯れを報告
1986		林野庁・環境庁が緊急調査を実施
1987	通産省からの受託研究を開始	
1988	全国規模で酸性雨の実態調査を開始 降水調査，流域調査，樹木調査，土壌調査を積極的に展開	環境庁が第二次酸性雨対策調査を開始
1989		金沢で環日本海における酸性雨・雪シンポを開催
1990	植物の暴露実験を開始	酸性霧の問題が全国的に広がる
1991	中・韓・台の研究機関と共同研究を開始	全公研が酸性雨モニタリングを開始 環境庁が東アジア酸性雨モニタリングネットワーク（MN）構想を提唱
1992	酸性雨フェーズⅠの取りまとめ	
1993	アイオワ大学との共同研究を開始 箱根において国際ワークショップ（WS）を開催	富山で東アジア酸性雨MN第1回専門家会合を開催 環境庁が第三次酸性雨対策調査を開始
1994	電中研レビュー「酸性雨の影響評価」を刊行	
1995	コンクリート暴露実験を開始 台湾電力会社と共同研究を開始	東京で東アジア酸性雨MN第2回専門家会合を開催
1996	酸性雨フェーズⅡの取りまとめ 東京において国際WSを開催 酸性雨研究グループが日経地球環境賞を受賞 実験林での連続観測を開始	新潟で東アジア酸性雨MN第3回専門家会合を開催
1997	東京において公開セミナーを開催	
1998	IIASAとの共同研究を開始 ラクセンベルクで第1回広域輸送WSを開催	広島で東アジア酸性雨MN第4回専門家会合を開催 新潟に酸性雨研究センターを設立 環境庁が第四次酸性雨対策調査を開始
1999	ラクセンベルクで第2回広域輸送WSを開催	
2000	ラクセンベルクで第3回広域輸送WSを開催し成果を集約	第6回酸性雨国際会議（つくば）
2001	酸性雨フェーズⅢの取りまとめ 電中研レビュー「酸性雨の総合評価」を刊行	

西 暦	ア ジ ア の 状 況	欧 米 の 状 況
1863		英国でアルカリ法が成立
1865		アンガス・スミスがアルカリ監督官に就任
1872		この頃ドイツでリービッヒの指導により降水分析
1873		アンガス・スミスが『大気と降水』を著す
1883	この頃インド（英）、仏印（仏）、南洋諸島（独）で降水調査	ロンドンスモッグ（1880年にも） ラッセルらがロンドンに降水観測網を設置
1919		英国でアルカリ法の成立
1923		ミラー『ヘブリデスとアイスランドの降水組成』 ケルナーが霧水分析をもとに古い海塩核説を提唱 セーレンセンがpHの概念を提唱
1952		ロンドンで大スモッグ
1955		ゴーフが水域環境の酸性化を指摘 ロスビーとエグナーが北欧で降水成分の広域観測を開始
1956		欧州大気観測網（EACN）の発足
1968		オデンが硫黄化合物の長距離輸送を指摘
1972	各地に気象機関のバックグラウンド観測所を開設	ストックホルムで国連の「人間環境会議」を開催 OECDの主宰によるモニタリングプログラムの開始
1973		米・加間で2国間協議を開始
1975		第1回酸性雨国際会議（Columbus, アメリカ）
1976		カナダにCANSAPが発足
1977		ヨーロッパでEMEPが発足
1978	韓国で最初の酸性雨調査	米国でNAPAPが10か年の調査研究を開始
1979		長距離越境大気汚染条約の締結
1980	韓国でソウル地域の酸性雨調査	第2回酸性雨国際会議（Sandefjord, ノルウェー）
1983	中国で第一次酸性雨調査 中国で第二次酸性雨調査 中国で國務院環境保護委員会の採択	米・加間で越境大気汚染に関する覚書を交換
1984		EMEP費用負担議定書の採択
1985		第3回酸性雨国際会議（Muskoaka, カナダ） ヘルシンキ議定書の採択（SO ₂ 排出量の30%削減）
1988	重慶で酸性雨に関する国際会議を開催	ソフィア議定書の採択（NO _x 排出量の凍結）
1990	中国で第八次五ヶ年計画	第4回酸性雨国際会議（Glasgow, スコットランド）
1991	世界銀行による RAINS-Asia	米国で新大気浄化法が成立 VOC排出抑制議定書の採択
1992	台北で東亜地区酸雨国際研究会を開催	リオデジャネイロで国連の「環境開発会議」を開催
1993	日本の環境庁が東アジア酸性雨 MN 構想を提唱 富山で第1回専門家会合を開催	
1994		オスロ議定書の採択（SO ₂ 排出量のさらなる削減）
1995	東京で第2回専門家会合を開催 新潟で第3回専門家会合を開催	第5回酸性雨国際会議（Gothenberg, スウェーデン）
1996		京都でCOP3を開催
1997	広島で第4回専門家会合を開催	
1998	横浜で第1回政府間会合を開催。試行稼働に合意。 横浜で第1回暫定科学諮問グループを開催	複数物質・複数影響議定書の採択
2000	新潟で第2回政府間会合を開催	
2001	東アジア酸性雨MNを本格稼働	